

# 広告美術仕上げ

技能をマイスターに学ぶ



技能者の高齢化が進む今、  
若手世代に技能を伝えたい。

新日鐵住金株式会社和歌山製鉄所の構内に併設する日鐵住金ビジネスサービス和歌山株式会社。敷地内の緑地管理、社宅管理、公園管理や印刷業務など様々なサービスを提供しています。なかでも、構内にある工場において使用される看板の製作を行う技能者の育成が急務となっていました。

ものづくりマイスター派遣先企業

## ■ 日鐵住金ビジネスサービス和歌山 株式会社

所在地	和歌山県和歌山市湊1850	従業員数	432名 (NSB:351名+NSHS:81名)
事業内容	緑地管理、社宅管理、公園管理、印刷業務、クリーニング、広告美術、他	設立年	昭和49年
		資本金	3000万円



テーマ

手作業で行う職人技を、どう継承するか。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

ベテランマイスターの指導により、  
技能の向上だけでなく、現場の士気も向上。

「広告美術仕上げ」を行う広告課に所属するメンバーのほとんどが60代。在籍する従業員は新日鐵グループのOBが大半を占め、30代の若手世代の育成が急務でした。「広告美術仕上げ」は、パソコンで行う作業の他、手書きで書かれた古い看板を新たにリニューアルする際など、職人の勘やコツが問われる手作業が多く、専門の技能が必要になります。また、近年では求められるクオリティ、スピード感など、業務のレベルが上がっており、難易度が高くなっていると感じていました。一方で、資格のある技能者の高齢化も進んでおり、どのように若手に技能を継承すべきか悩んでいた時にマイスター制度と出会いました。今回来ていただいた中井マイスターは、この道何十年という大ベテラン。私自身も、講義の内容を聞いて、非常に勉強になりました。受講したメンバーからは、自分のレベルをさらに上げたいという前向きな声が上がっており、技能の向上だけでなく、現場の士気向上にもつながっています。



日鐵住金ビジネスサービス和歌山株式会社  
業務部広告課 課長 坂田耕一さん

## ■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：5回 受講者数：2名  
実施場所：日鐵住金ビジネスサービス和歌山株式会社 本社内

## ■ プログラム内容

- 1回目 広告美術の作業概要説明、カットニング指導
- 2回目 絵図・文字のカットニング指導、拡大方法の指導
- 3回目 カットの仕方、拡大方法の指導、レイアウトの仕方
- 4回目 カットニング指導、作業工程指導、拡大方法指導、課題完遂に向けた指導
- 5回目 カットニング指導、貼付け指導、時間短縮への挑戦、繰り返し練習の指導



## ■ 教育プログラムの解説

特に重点的に指導が行われたのは、作業時間を短縮するための技法。マンツーマンで正確かつスピーディーに作業を行うコツについて指導を受けます。ベースになったのは、技能検定2級の課題。特に難しいカットニングの作業、拡大の作業は、繰り返し練習を行い、作業の工程や仕上がりをマイスターにチェックしてもらいながら、不得意な領域を克服していきます。毎回、次週までの宿題に取り組むことで、予習・復習を促しました。

座談会  
INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者  
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真\_中央)

中井 義宣さん

昭和21年生まれ  
平成2年度 1級技能士「広告美術仕上げ(広告面粘着シート仕上げ作業)」  
取得  
平成25年度 厚生労働省 ものづくりマスター「広告美術仕上げ」認定

看板や標識の製作に従事し、現在は「なかい工芸」の代表取締役社長を務める。長年の功績が称えられ、平成28年、春の叙勲受章者に選ばれる。マスターとして、同社のほか、和歌山県内の高校への指導にもあたる。

受講した若手技能者 (写真\_左)

山口 恭伸さん | 平成27年入社

父が構内で働いていたことから、同社に入社。現在は、現場で実践を積み、昨年度、技能検定3級に合格。今年は、2級に挑戦予定。

受講した若手技能者 (写真\_右)

楠見 浩朗さん | 平成29年入社

山口さん同様、未経験からのスタート。昨年度、山口さんとともに技能検定3級に合格。いずれは1級の取得が目標。

教材だけでは学べない。  
手作業のコツ。

**中井さん** 看板に貼る文字は、最近ではコンピューターでカットすることが多くなりました。それでも、手作業でカットする必要が多い現場も、まだまだあります。この手作業の指導は、非常に難しいところ。特に、カットと拡大の作業は皆さん苦勞するので、今回はそこを重点的に指導しました。

**楠見さん** 私自身は現場でシルクスクリーン印刷をやっていたので、切り文字を一から手で切っていく作業を経験したのは初めて。いい経験になりました。

**山口さん** パソコンでの作業が多いため、自分の手でカットする経験に乏しく、教材を使って学ぶにも、なかなか勘どころをつかむのが難しかったです。教えて頂いたことで、少し自信がつかまりました。



目で見て、手を動かして  
体で覚える。その繰り返し。

**中井さん** 職人というのは、人の技を目で見て、盗んで、自分のものにする。自分で力をつけるには、鍛錬の繰り返し。そういった意味で、今回は週一回の講習だけでなく宿題にも取り組んでいただき、何度も繰り返し勉強してもらった方がいい機会だったと思います。

**山口さん** 機械に頼っていると、実践では使い物にならないこともあります。例えば、昔の看板のフォントがパソコンにないときは、看板をヒントに自分で文字を作らないといけない。拡大、カットの作業を中井マスターから教えてもらったので、実際の現場でも対応ができました。

**中井さん** 一文字、一文字、自分の手で写し取って、自分の手でフィルムを切ることで、自然と文字の形を体で覚えるんです。そうすると、貼付け作業の時も文字の形を考えながら無駄なく作業ができるんですよ。早く、キレイに、案にできるのが一番、というのが私のモットー。どんなにいい腕を持っていても、時間がかかっているのは、まだまだ半人前。細かい寸法が決まっていないうちは、自分



の目で見ていい案配で文字を拡大して、切り貼りしていく。見た目が第一ですから。ある程度の感覚を掴むまでは、やはり練習あるのみ。みんなそれぞれ得意、不得意があるので、一人ひとりの得意なところを伸ばすような指導を心がけました。



本当に現場で生きるのは、体で覚えた職人の技。  
そのために何度でも、鍛錬を続けていく。

新しい技法、新しい視点を  
養うことで技が磨かれる。

**山口さん** 経験が豊富にあって、看板屋を何社も渡り歩いていたら、「こんな技法があるんだ」と引き出しが増えるけれど、まだまだ経験も浅く、他社の技法を学ぶ機会がありません。中井マスターに教わることで、新たな知識、新たな技法を学ぶことができたのは大きかったです。

**楠見さん** 自分が当たり前だと思っていた方法が、当たり前じゃなかったり、自分では考えつかないような方法と出会ったり。受講後、実際に仕事においても、作業のスピードが上がったという感覚があります。

**中井さん** どうしなければいけない、と

いう決まりはないんだけど、いろんな技法を学んで自分にとっていい方法を身につけて欲しいと思います。

**山口さん** 中井マスターに教えていただいたことを生かして、まずは技能検定2級、ゆくゆくは1級を目指したいですね。

**中井さん** 職人の数は、年々少なくなっていると感じます。技能継承が進むのは、技能者としてやるせない。私がかもともとマスターになろうと思ったのも、自分の技能を伝えることで、日本のものづくりのため、後輩の育成のために少しでも力になれば、という思いから。ぜひ、これからの世代の二人には、技能の鍛錬を続けていって欲しいですね。

